

二枚貝の効率的な分殖法の開発

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

1. アカガイなどの二枚貝を大量に養殖する場合、稚貝を養殖用のカゴやコンテナ等の容器に小分けしなければならず、収益性の悪化の要因となっている。この小分け作業(分殖)に人手をかけない効率の良い作業法を開発することで、収益率の改善を目的にした。

研究成果

1. アカガイをアコヤガイで用いられている採苗基質を用いて種苗生産し、これに人工スギ葉(ブラックリーフ)を重ねて、カゴに入れておくことで、貝が自発的に移動分散することが確認され、アコヤガイで利用されている技術の適用が実証できた。
2. 種苗生産時からカキ殻を用いて、カキ殻1枚に1カゴ当たりの適正量を付着させ、それを養殖用のカゴに当初から収容することで、貝の平均的な成長と生残率の向上が見込めることが確認できた。
3. 安価なカゴ及び基質を使用することで、採算性及び作業性が向上し、利益率の向上が見込めるようになった。

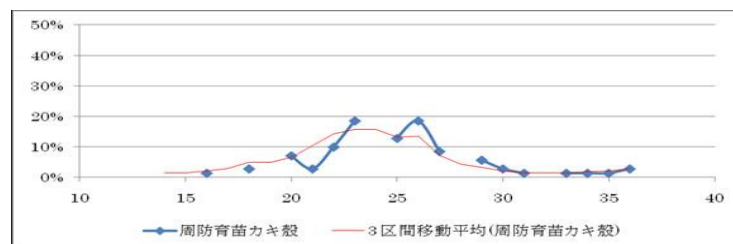
波及効果

養殖形態を考慮した種苗生産法及び採苗基質の利用により、収益性の高い養殖に拡大、発展する可能性が出てきた。



稲の育苗箱を利用した養殖カゴ

カキ殻1枚、1カゴ当たりの種苗の状況



1カゴに収容したアカガイの殻長の分布

(生産システム開発グループ: 高木儀昌・大村智宏・伏屋玲子・田丸修)